

自然共生サイト マテリアルの森

実施日 2025年9月6日

自然共生サイトに認定されている「マテリアルの森 手稲山林」において自然観察会を行いました! さまざまな動植物の観察を通じて、「マテリアルの森」の自然への理解を深めるとともに、自然共生サイトが生物多様性の保全に果たす役割についても考えていただく機会になりました。

「マテリアルの森」はどんな森



マテリアルの森は、三菱マテリアル株式会社が手稲区に所有する山林で2023年に自然共生サイトに登録。面積は約1,230haで、北海道で登録されている19箇所で2番目の広さで(2025年度11月時点)、その大きさも特徴の一つです。



マテリアルの森に多い広葉樹二次林



森林調査簿上は人工林が約25%を占めますが、植栽後にはうまく育たず、様々な広葉樹が自然に育って、広葉樹林に近い森林になっている人工林もあります(写真右)。

「カッコウの森」キャンプ場

参加者は10名、スタッフも合わせて22名でした。最初に、札幌市から自然共生サイトの取り組みについて、三菱マテリアルの職員からマテリアルの森の概要や森で見られる動植物などについて説明がありました。



「カッコウの森」は札幌市が三菱マテリアル株式会社から森の一部を借り受けて整備しているキャンプ場です。今回このキャンプ場で観察会を行いました。



被食により枯死したハイイヌガヤ



樹皮はぎされたオヒョウ



ネットで保護されたハリニレ

沢に近い森の土壌は湿っており、湿った場所を好むハリニレなどの樹種も多く見られます。さらに、礫(レキ)を多く含む土壌のためササが少なく、ハイイヌガヤが多い場所も見られます。ただ、エゾシカによるニレ類の樹皮はぎや、ハイイヌガヤの被食など、全体的にエゾシカによる森への影響が目立っています。

三樽別川

三樽別川は手稲山を源流とする河川で、急崖と過去の手稲山の山体崩壊によって生じた岩屑など堆積物のある緩斜面の境界を流れています。大きな岩も多く、上流部の渓流らしい景観が見られます。カッコウの森に隣接していて、散策路が整備されているため、生き物観察を行いました。



前日にカゴワナを設置

三樽別川での生き物観察

最初に川の生き物の採集方法紹介してから、参加者もたも網などを使って採集に挑戦しました。短時間ではありましたが、大勢で採集をしたので、多くの水生動物をつかまることができました。



採集した生き物を持ちより観察



小さい生き物はシャーレに分けて観察



採集や観察の様子

●確認された主な水生動物

魚類：ハナカジカ・ニジマス、甲殻類：モクズガニ

水生昆虫：フタスジモンカゲロウ・カワゲラの仲間、ムカシトンボ・オニヤンマ・モイワサナエ、ヒゲナガカワトビケラ・アメリカカクスイトビケラ・コカクツツビケラ・ナガレトビケラ・ガガンボの仲間



前日に設置したカゴワナにモクズガニ(5匹)

がかかるっていました。モクズガニは海で産まれ若い個体が川に上ってきます。三樽別川には下流に多くの落差工があります(右写真)が、垂直の壁でも簡単に登る能力があり、障害にはならないようです。成体に成長すると秋から冬にかけて繁殖のため海に下ります(繁殖後は命を終える)。今回確認された成体も今頃は海にいることでしょう。さと川探検隊でも上流での確認は初めてとのことで、マテリアルの森の生き物リストにこのカニが追加されました。



ヒゲナガカワトビケラ



ジョウサンエグリトビケラ(蛹)

アメリカカクツツビケラ

トビケラの仲間は今回最も多くの種類が見られました。巣材や生息環境の違いにより川の中で棲み分けをしている虫です。



ハナカジカは北海道の渓流河川の代表的な淡水魚です。今回も今年産まれの稚魚がたくさん見つかり、順調に世代交代していることがうかがえました。



今回の観察会の発見の一つが外来種のニジマスです。さと川探検隊の調査でもこれまで下流のみの確認だったそうです。モクズガニと異なり、落差工は越えられないはずですので、なぜ生息するようになったのか気になるところです。

最後にマテリアルの森で行われている取り組みについての説明があり、マテリアルの森での環境に配慮した森林施業についても紹介されました。参加者からも今後の取り組みについての質問が多くあり、自然共生サイトへの関心の高さが伺えました。以下のような意見や質問がありました。

・どんな樹種を間伐しているの？／環境保全をより進めていくために今後考えている施策は？／自然共生サイトのこれまでの記録を残していくことは重要と思うが、データなどは見られる？／この森の自慢は？／森自体のお話ももう少し知りたい／是非他の自然共生サイトについても同様にイベントを行ってほしい。

「マテリアルの森 手稻山林」で、今後もこのような活動をする機会がありましたら、ぜひご参加いただければと思います。

★今回のスタッフ

今回の行事は以下のスタッフによって企画・運営しました。

◆主催 札幌市環境局環境共生担当課 坂田・前河・大澤

◆案内スタッフ 三菱マテリアル株式会社 松本・川合・北野 手稻さと川探検隊 鈴木玲・沼田・山木・住田

◆企画・進行 (株)さっぽろ自然調査館 渡辺展

